

令和元年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	愛知県		市町村類型	I-O		指定団体等の指定状況		区分		区分		区分		区分							
								令和元年度(千円)	平成30年度(千円)	令和元年度(千円・%)	平成30年度(千円・%)	令和元年度(千円・%)	平成30年度(千円・%)								
市町村名	新城市		地方交付税種地	1-2		財政健全化等	×	繰入総額	24,303,495	26,102,463	実質収支比率	5.2	5.9	繰出総額	23,362,711	25,154,265	經常収支比率	91.3	90.9		
								繰入歳出差引	940,784	948,198	(※1)	(95.9)	(97.1)		標準財政規模	14,316,782	14,333,750				
人口	平成27年国調(人)	47,133	産業構造(※5)		首都	×	翌年度に繰越すべき財源	194,394	97,537	財政力指数	0.57	0.58	実質収支	746,390	850,661	財政力指数	0.57	0.58			
	平成22年国調(人)	49,864			中部	×	単年度収支	-104,271	353,141	公債費負担比率	14.5	13.1	増減率(%)	-5.5		健全化判断比率			実質赤字比率	-	-
住民基本台帳人口(※7)	令02.01.01(人)	46,029	区分	平成27年国調	平成22年国調	低開発	×	繰入金取崩し額	528,612	452,272	連結実質赤字比率	-	-	繰入金取崩し額	528,612	452,272	実質公債費比率	6.0	5.6		
	うち日本人(人)	44,971		第1次	2,066	2,217	指数表選定	○	実質単年度収支	-631,297	-95,459	将来負担比率	50.7	45.8	実質単年度収支	-631,297	-95,459	将来負担比率	50.7	45.8	
	平31.01.01(人)	46,761			8.6	8.7	基準財政収入額	6,602,016	6,450,721	資金不足比率(※4)			基準財政収入額	11,596,209	11,280,011	基準財政収入額	11,596,209	11,280,011	基準財政収入額	11,596,209	11,280,011
	うち日本人(人)	45,827		第2次	9,096	10,196	標準財政需要額	8,406,231	8,218,427	標準財政需要額	8,406,231	8,218,427	標準財政需要額	8,406,231	8,218,427	標準財政需要額	8,406,231	8,218,427	標準財政需要額	8,406,231	8,218,427
	増減率(%)	-1.6			37.9	40.0	標準税収入額等	12,831	13,067	標準税収入額等	12,831	13,067	標準税収入額等	12,831	13,067	標準税収入額等	12,831	13,067	標準税収入額等	12,831	13,067
	うち日本人(%)	-1.9		第3次	53.5	51.3	経常経費充当一般財源等	13,603,896	13,604,989	経常経費充当一般財源等	13,603,896	13,604,989	経常経費充当一般財源等	13,603,896	13,604,989	経常経費充当一般財源等	13,603,896	13,604,989	経常経費充当一般財源等	13,603,896	13,604,989
面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23		面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	面積(km ²)	499.23	
人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94	人口密度(人/km ²)	94		
世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454	世帯数(世帯)	16,454		
職員等の状況														地方債現在高		28,324,273	27,922,725	うち公的資金		23,397,375	24,077,067
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	債務負担行為額(支出予定額)	1,311,473	690,635	収益事業収入	-	-	土地開発基金現在高	600,000	600,000	積立金現在高	2,117,594	2,644,620		
	市区町村長	1	8,330	一般職員	636	1,848,852	2,907	減債基金	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099	財政調整基金	2,117,594	2,644,620	減債基金	729,977	729,652		
	副市区町村長	1	7,750	うち消防職員	148	426,536	2,882	土地開発基金現在高	600,000	600,000	積立金現在高	2,117,594	2,644,620	減債基金	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099		
	教育長	1	6,800	うち技能労務職員	12	31,164	2,597	積立金現在高	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099	減債基金	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099		
	議会議長	1	4,890	教育公務員	5	18,125	3,625	財政調整基金	2,117,594	2,644,620	減債基金	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099	減債基金	729,977	729,652		
	議会副議長	1	4,090	臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	600,000	600,000	積立金現在高	2,117,594	2,644,620	減債基金	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099		
	議会議員	16	3,720	合計	641	1,866,977	2,913	積立金現在高	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099	減債基金	729,977	729,652	その他特定目的基金	2,709,815	2,938,099		
				ラสบイレス指数		97.9															
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧	(※3)															
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名												
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険事業特別会計	(5)	水道事業会計	(9)	宅地造成事業特別会計	(10)	愛知県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(15)	新城市土地開発公社										
		(3)	後期高齢者医療特別会計	(6)	工業用水道事業会計			(11)	愛知県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(16)	農林業公社しんしろ										
		(4)	国民健康保険診療所特別会計	(7)	病院事業会計			(12)	新城北設楽交通災害共済組合	(17)	つくで手作り村										
				(8)	下水道事業会計			(13)	東三河広域連合(一般会計)												
								(14)	東三河広域連合(介護保険事業特別会計)												

(注釈) ※1: 經常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位 千円・%)				地方税の状況(単位 千円・%)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比
地方税	7,348,792	30.2	7,082,729	49.9	普通税	7,062,630	96.1
地方譲与税	298,726	1.2	298,726	2.1	法定普通税	7,062,630	96.1
利子割交付金	5,428	0.0	5,428	0.0	市町村民税	2,868,426	39.0
配当割交付金	37,649	0.2	37,649	0.3	個人均等割	86,555	1.2
株式等譲渡所得割交付金	19,315	0.1	19,315	0.1	所得割	2,233,067	30.4
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	133,269	1.8
地方消費税交付金	836,723	3.4	836,723	5.9	法人税割	415,535	5.7
ゴルフ場利用税交付金	67,955	0.3	67,955	0.5	固定資産税	3,783,298	51.5
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	3,758,236	51.1
自動車取得税交付金	75,779	0.3	75,779	0.5	軽自動車税	159,868	2.2
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	251,038	3.4
自動車税環境性能割交付金	23,372	0.1	23,372	0.2	鉱産税	-	-
地方特例交付金等	169,618	0.7	169,618	1.2	特別土地保有税	-	-
個人住民税減収補填特例交付金	34,228	0.1	34,228	0.2	法定外普通税	-	-
自動車税減収補填特例交付金	12,115	0.0	12,115	0.1	目的税	286,162	3.9
軽自動車税減収補填特例交付金	1,323	0.0	1,323	0.0	法定目的税	286,162	3.9
子ども・子育て支援臨時交付金	121,952	0.5	121,952	0.9	入湯税	20,100	0.3
地方交付税	5,833,553	24.0	5,190,354	36.6	事業所税	-	-
普通交付税	5,190,354	21.4	5,190,354	36.6	都市計画税	266,062	3.6
特別交付税	643,199	2.6	-	-	水利地益税等	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	法定外目的税	-	-
(一般財源計)	14,716,910	60.6	13,807,648	97.4	旧法による税	-	-
交通安全対策特別交付金	7,703	0.0	7,703	0.1	合計	7,348,792	100.0
分担金・負担金	489,891	2.0	-	-			
使用料	235,159	1.0	17,908	0.1			
手数料	102,511	0.4	-	-			
国庫支出金	1,879,940	7.7	-	-			
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-			
都道府県支出金	1,330,077	5.5	-	-			
財産収入	65,329	0.3	12,000	0.1			
寄附金	25,566	0.1	-	-			
繰入金	813,943	3.3	-	-			
繰越金	948,198	3.9	-	-			
諸収入	853,268	3.5	334,793	2.4			
地方債	2,835,000	11.7	-	-			
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-			
うち臨時財政対策債	720,100	3.0	-	-			
歳入合計	24,303,495	100.0	14,180,052	100.0			

歳出の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	197,766	0.8	-	197,766
総務費	3,015,056	12.9	370,829	2,263,057
民生費	6,076,137	26.0	62,539	3,776,039
衛生費	3,027,301	13.0	154,319	2,747,428
労働費	87,184	0.4	3,435	86,005
農林水産業費	1,119,810	4.8	392,440	563,994
商工費	1,378,788	5.9	437,060	1,078,167
土木費	1,612,534	6.9	974,767	847,865
消防費	1,516,025	6.5	102,237	933,071
教育費	2,647,283	11.3	1,217,675	1,428,555
災害復旧費	125,443	0.5	-	34,473
公債費	2,559,384	11.0	-	2,527,678
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	23,362,711	100.0	3,715,301	16,484,098

性質別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	10,342,512	44.3	7,998,243	7,697,272	51.7
人件費	4,934,155	21.1	4,318,017	4,020,844	27.0
うち職員給	3,518,157	15.1	2,945,900	-	-
扶助費	2,848,973	12.2	1,152,548	1,148,750	7.7
公債費	2,559,384	11.0	2,527,678	2,527,678	17.0
元利償還金	2,559,384	11.0	2,527,678	2,527,678	17.0
うち元金	2,433,452	10.4	2,404,994	2,404,994	16.1
うち利子	125,932	0.5	122,684	122,684	0.8
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	9,179,455	39.3	7,577,836	5,906,624	39.6
物件費	3,878,508	16.6	3,069,605	2,401,821	16.1
維持補修費	149,724	0.6	125,265	124,890	0.8
補助費等	3,340,524	14.3	2,872,146	2,412,483	16.2
うち一部事務組合負担金	683,416	2.9	683,416	683,416	4.6
繰出金	1,053,125	4.5	802,622	663,430	4.5
積立金	57,137	0.2	40,661	-	-
投資・出資金・貸付金	700,437	3.0	667,537	304,000	2.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	3,840,744	16.4	908,019	-	-
うち人件費	162,855	0.7	162,852	-	-
普通建設事業費	3,715,301	15.9	873,546	-	-
うち補助	980,383	4.2	73,674	-	-
うち単独	2,696,847	11.5	777,953	-	-
災害復旧事業費	125,443	0.5	34,473	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	23,362,711	100.0	16,484,098	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和元年度 豊知県新城市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	24,303	23,362	941	746	814	28,324	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和元年度

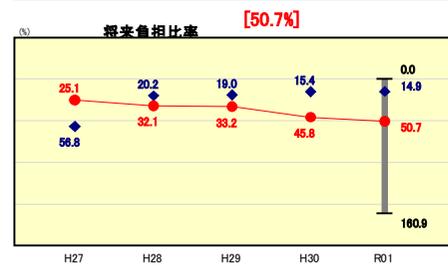
愛知県新城市

人口	46,029	人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	44,971	人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	499.23	km ²	実質公債費比率	6.0	%
歳入総額	24,303,495	千円	将来負担比率	50.7	%
歳出総額	23,362,711	千円	市町村類型	H27 I-2 H28 I-0 H29 I-0	
実収支	746,390	千円	(年度毎)	H30 I-0 R01 I-0	
標準財政規模	14,316,782	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

将来負担の状況



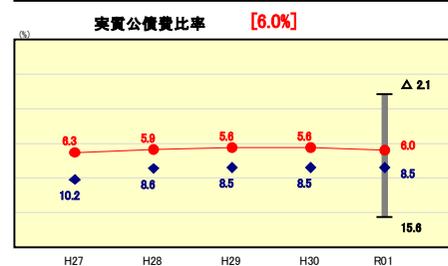
将来負担額については市債残高が増加したこと、将来負担額に充当可能財源等については財政調整基金を取り崩したことなどにより前年度より4.9ポイント増加した。なお、算定初年度の平成19年度には将来負担比率が116.3%であったが、財政健全化に努めた結果、65.6ポイントの改善を図ることが出来ている。
 今後は、風来総合支所等整備事業や学校給食施設改築事業など旧合併特例事業債を中心に大型の市債発行が予定されているが、市債の発行については必要性を精査し、また財政調整基金を取り崩さない財政運営を図り、将来負担の抑制に取り組んでいく。

財政力



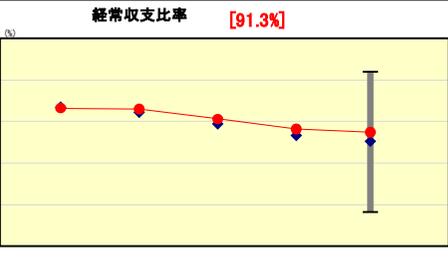
前年度より0.01ポイント減少したが、類似団体平均を上回っている状況である。
 根幹的な自主財源である地方税の大幅な伸びは見込めず、また令和2年度まで合併算定替えの縮減により普通交付税も減少が見込まれる。このような背景を踏まえ、平成30年度に策定した新城市財政健全化推進プランに基づき自主財源の確保に努めるとともに、事務効率化等の歳出見直しや公共施設等管理適正化に取り組んでいく。

公債費負担の状況



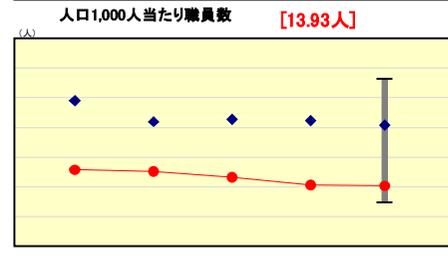
実質公債費比率は前年度に比べ0.4ポイント上昇したが、類似団体平均を2.5ポイント下回っている。算定初年度の平成18年度には15.7%であったが、財政健全化に努めた結果、9.7ポイントの改善を図ることが出来ている。
 今後も、市債を計画的に発行していくとともに、財源確保に努め、市債に大きく依存しない財政運営を進めていく。

財政構造の弾力性



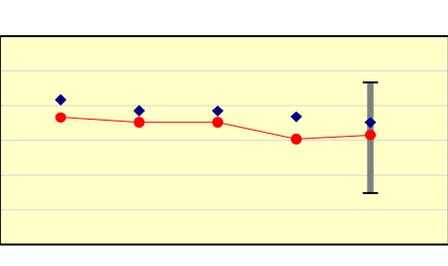
経常収支比率は91.3%となり、類似団体平均より下回っているものの平成30年度に続き90%を超過している。経常経費充当一般財源等は前年度と同水準を維持したが、臨時財政対策債が折半対象財源不足額解消に伴い発行額が減少したことが経常収支比率上昇に影響しているものと分析している。
 地方税の大幅な伸びは見込めず、また令和2年度まで合併算定替えの縮減により普通交付税も減少が見込まれ、経常一般財源等は減少する見込みである。財政構造の硬直化を抑制するため、今後とも事務事業の見直しを進め、経常経費の削減に努める。

定員管理の状況



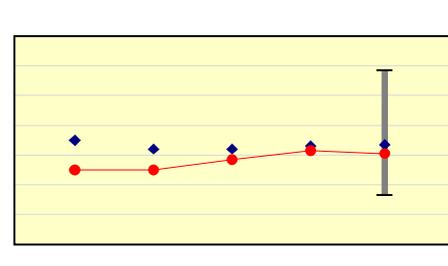
近隣町村の常備消防業務を受託していること、市内に2箇所の民間小規模保育所はあるものの、それ以外の15箇所のこども園を市直営で運営していること等の特殊要因が影響し、類似団体平均を大きく上回っている。今後も第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努めていく。

人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額は、前年度に比べ6,023円減少したが、依然として類似団体平均を上回っている状況である。
 人件費については、市内15こども園を直営で運営していることや、近隣町村からの消防業務受託など特殊要因が影響しているが、第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努め、人件費の抑制を図っていく。物件費についても、広大な市域に点在する公共施設について廃止、譲渡などの整理を継続し、更なる経費の削減に努める。

給与水準 (国との比較)



職員構成の変動などにより前年度より0.2ポイント増加した。また類似団体平均と比較し0.6ポイント上回っているが、全国市平均と比較し1.0ポイント下回っている。
 今後は適正な給与水準の維持に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

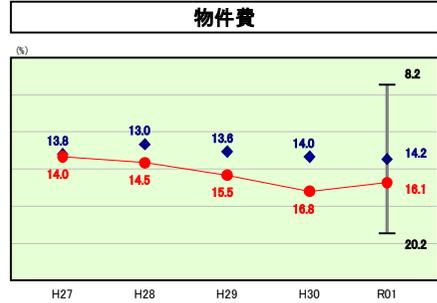
愛知県新城市

経常収支比率の分析

人口	46,029	人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	44,971	人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	499.23	km ²	実質公債費比率	6.0	%
歳入総額	24,303,495	千円	将来負担比率	50.7	%
歳出総額	23,362,711	千円			
実質収支	746,390	千円	市町村類型	H27 I-2 H28 I-0 H29 I-0	
標準財政規模	14,316,782	千円	(年度毎)	H30 I-0 R01 I-0	
地方債現在高	28,324,273	千円			



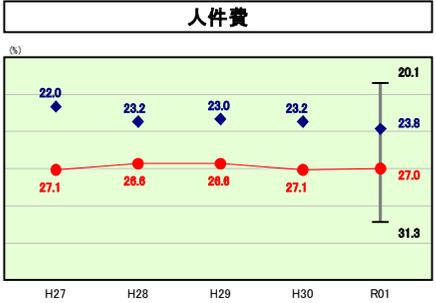
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 24/35 **全国平均** 15.0 **愛知県平均** 16.2

物件費の分析欄

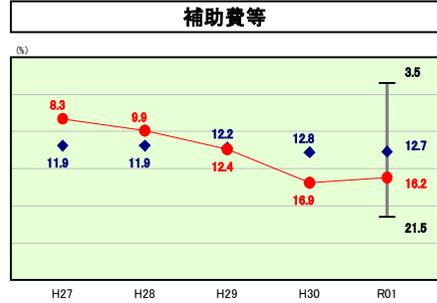
物件費は前年度と比較し0.7ポイント改善したが、類似団体平均を依然として上回っている。市内15こども園を直営で運営していることや、近隣町村からの消防業務受託などの特殊要因が数値を押し上げている面があるが、今後も物件費の抑制策として、広大な市域に点在する公共施設の維持管理経費を削減するため、新城市公共施設等総合管理計画に基づき、市民の理解を得たうえで施設の譲渡・廃止を進めていく。



類似団体内順位 29/35 **全国平均** 25.6 **愛知県平均** 25.6

人件費の分析欄

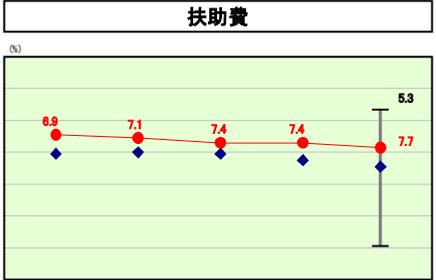
退職手当や時間外勤務手当の減により前年度と比較し0.1ポイント改善したが、近隣町村の常備消防業務を受託していること、市内に2箇所の民間小規模保育所はあるものの、それ以外の15箇所のこども園を市直営で運営していること等の特殊要因が影響し、人件費は類似団体平均を上回っている。第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努め、人件費の抑制を図っていく。



類似団体内順位 26/35 **全国平均** 10.3 **愛知県平均** 11.0

補助費等の分析欄

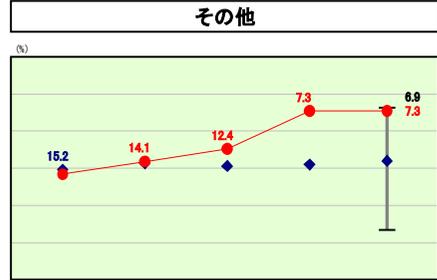
平成30年度に介護保険事業が東三河広域連合に統合されたことによる介護保険事業特別会計繰出金の性質変更(繰出金から補助費等)により、平成30年度以降は類似団体平均を大きく上回る状況となっている。引き続き補助金等の見直しを行うとともに、企業会計については経営健全化計画等に基づき適正な経営に努めていく。



類似団体内順位 13/35 **全国平均** 13.1 **愛知県平均** 14.6

扶助費の分析欄

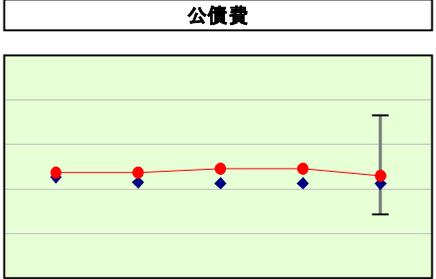
扶助費は前年度と比較し0.3ポイント増加したが、類似団体平均を下回っている。増加要因としては障害者サービス利用施設の増加とサービス充実に伴う介護給付事業(障害福祉)が年々増加していることや、高齢者人口の増加による生活扶助の増加が挙げられる。扶助費の増加は今後も続くことが見込まれるが、引き続き適正な給付事務に努めていく。



類似団体内順位 4/35 **全国平均** 13.1 **愛知県平均** 10.9

その他の分析欄

平成30年度に介護保険事業が東三河広域連合に統合されたことによる介護保険事業特別会計繰出金の性質変更(繰出金から補助費等)により、平成30年度以降は類似団体平均を大きく下回る状況となっている。新城市公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の統合・譲渡などを進め、施設の維持管理経費を削減するとともに、公営企業の利用者の増加などを図っていく。

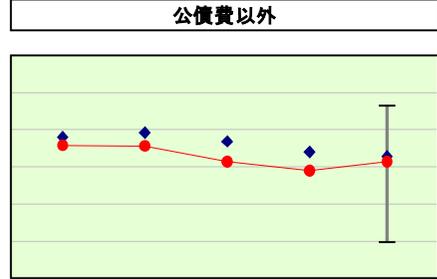


類似団体内順位 12/35 **全国平均** 16.5 **愛知県平均** 12.4

公債費の分析欄

公債費は類似団体平均を下回っているものの、前年度と比較して1.6ポイントの増加となった。これは市町村合併後継続的に進めてきた大型建設事業に係る地方債償還額の増加によるもので、旧合併特別事業債の発行期限の令和7年度までは当該事業債を活用した大型建設事業が計画されていることから、当面は公債費の増加が続くことが見込まれる。

公債費の増加抑制のため、今後も市債の発行については常に必要性や規模などを精査していくこととしている。



類似団体内順位 21/35 **全国平均** 77.1 **愛知県平均** 78.2

公債費以外の分析欄

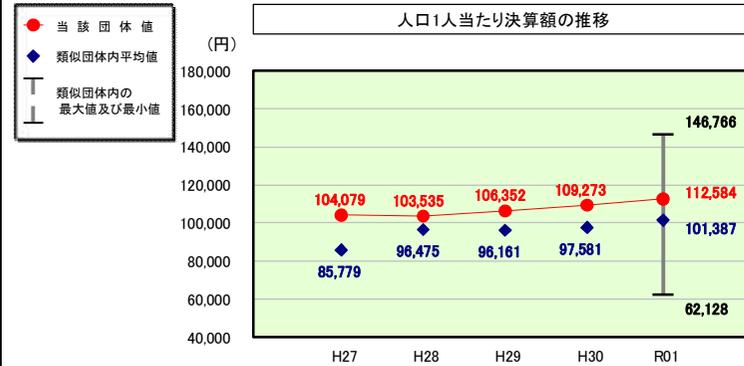
普通建設事業費や物件費の減少により、前年度と比較し1.2ポイントの改善となったが、類似団体平均を若干上回っている状況である。新城市公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の統合・譲渡などを進め、施設の維持管理経費を削減するとともに、公営企業などの使用料や保険料の適正化を図っていく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

愛知県新城市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

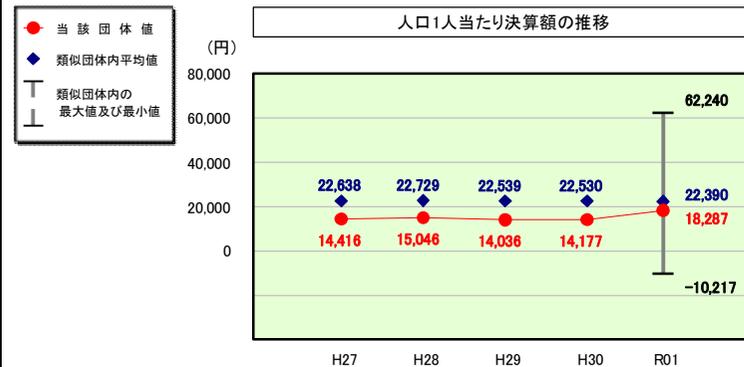
	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	4,934,155	107,197	86,913	▲ 23.3
賃金(物件費)	316,395	6,874	6,233	▲ 10.3
一部事務組合負担金(補助費等)	3,312	72	8,689	▲ 99.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,166	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	2	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	34,607	752	4,180	▲ 82.0
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	162,855	3,538	2,009	▲ 76.1
▲退職金	▲ 269,190	▲ 5,848	▲ 7,805	▲ 25.1
合計	5,182,134	112,584	101,387	11.0

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	13.93	9.84	4.09
ラスバイレス指数	97.9	97.3	0.6

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

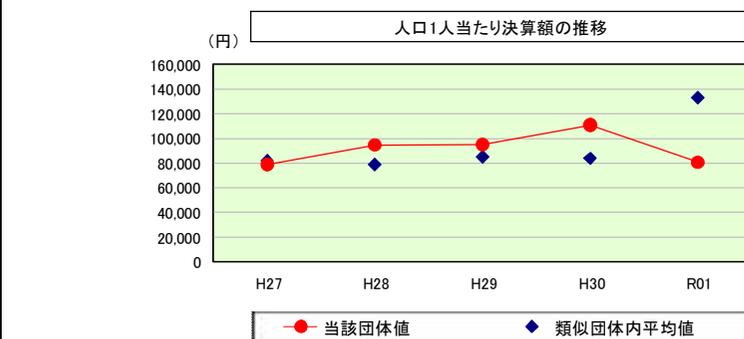


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額(繰上償還額等を除く)	2,559,384	55,604	64,413	▲ 13.7
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還に相当するもの(年度割相当額)	-	-	12	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	964,713	20,959	17,720	18.3
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	-	-	3,472	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	14,241	309	556	▲ 44.4
一時借入金利息(同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 230,940	▲ 5,017	▲ 3,031	65.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 2,465,687	▲ 53,568	▲ 60,754	▲ 11.8
合計	841,711	18,287	22,390	▲ 18.3

※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H27	3,830,613	78,895	5.5	81,768	▲ 2.2	7.7
うち単独分	2,545,646	52,430	▲ 6.5	37,917	▲ 22.3	15.8
H28	4,540,820	94,691	20.0	78,864	▲ 3.6	23.6
うち単独分	2,792,228	58,227	11.1	46,136	21.7	▲ 10.6
H29	4,503,219	95,097	0.4	85,042	7.8	▲ 7.4
うち単独分	3,557,769	75,131	29.0	50,806	10.1	▲ 18.9
H30	5,182,633	110,832	16.5	83,774	▲ 1.5	18.0
うち単独分	4,585,015	98,052	30.5	52,179	2.7	27.8
R01	3,715,301	80,717	▲ 27.2	132,981	58.7	▲ 85.9
うち単独分	2,696,847	58,590	▲ 40.2	56,973	9.2	▲ 49.4
過去5年間平均	4,354,517	92,046	3.0	92,486	11.8	▲ 8.8
うち単独分	3,235,501	68,486	4.8	48,802	4.3	0.5

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

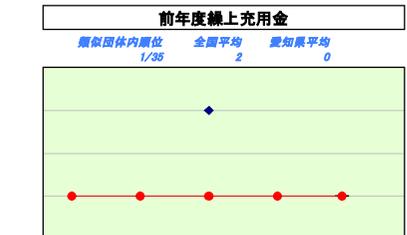
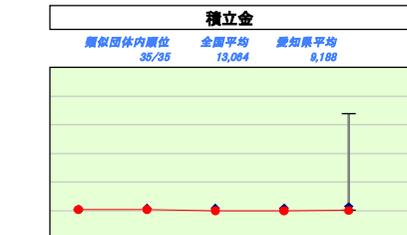
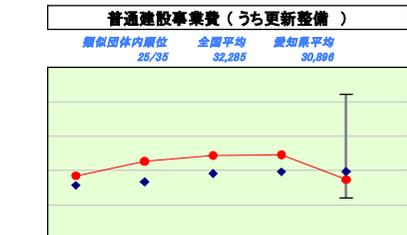
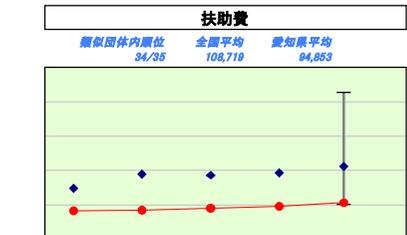
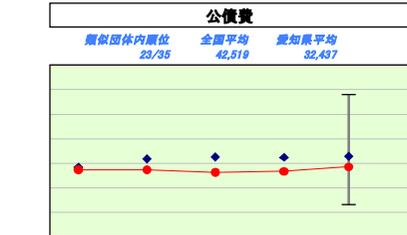
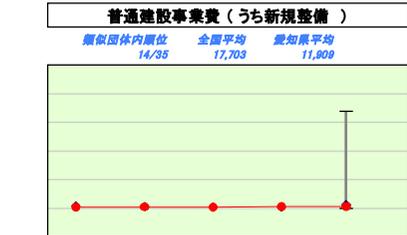
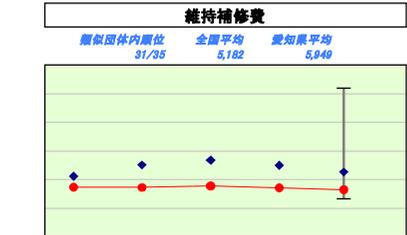
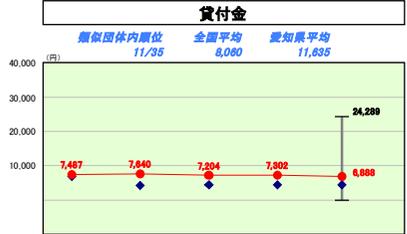
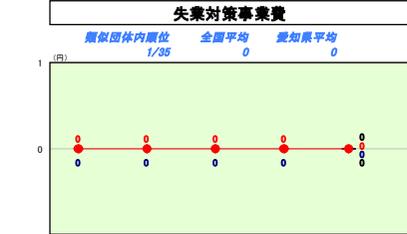
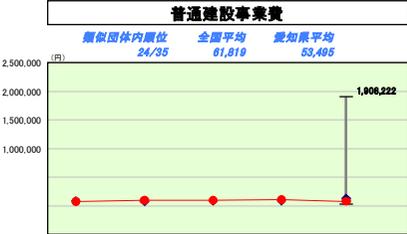
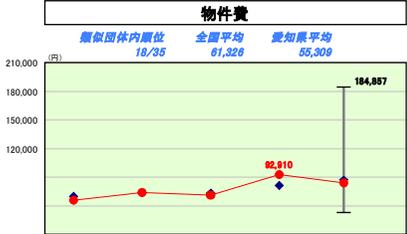
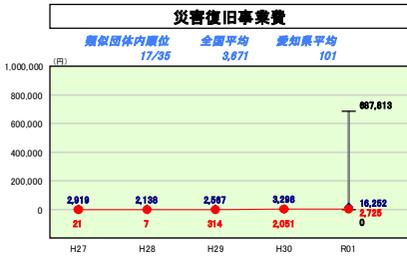
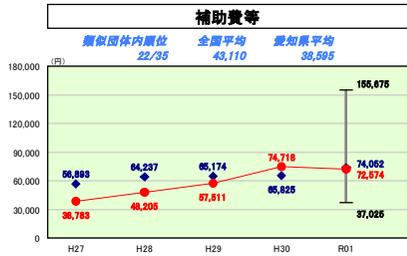
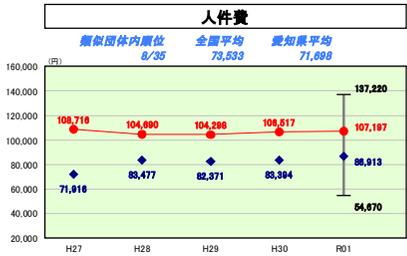
令和元年度

愛知県新城市

人口	46,029 人(22.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	44,971 人(22.1.1現在)	連続実質赤字比率	- %
面積	499.23 km ²	実質公債費比率	6.0 %
歳入総額	24,303,495 千円	将来負担比率	50.7 %
歳出総額	23,362,711 千円	市町村類型	H27 I-2 H28 I-0 H29 I-0
実収支	746,390 千円	(年度毎)	H30 I-0 R01 I-0
標準財政規模	14,316,782 千円		
地方債現在高	28,324,273 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

経費的経費を見ると、人件費は退職手当や時間外勤務手当の減により総額は減少したものの人口減少により住民一人当たりの人件費は680円の増加となった。市内15こども園を直営で運営していることや近隣町村からの消防業務委託など特殊要因が影響し、類似団体内順位では上位となっている。扶助費は民生費の社会福祉費や生活保護費が増加したことに伴い一人当たりのコストは3,042円増加している。公債費は新たに借り入れた地方債は控除のため利付償還金は減少しているが、旧合併特別事業債を中心に大型事業の起債が続き元償還金は増加したため、5,556円増加している。

投資的経費を見ると、普通建設事業のうち新規整備は小中学校への空調設備整備などにより5,967円増加となった。更新設備については庁舎建設事業の増減や下水道投入施設整備事業の減少などにより36,373円減少した。

その他の経費を見ると、物件費は庁舎建設に伴う各種備品の購入や庁内LANクライアントパソコン購入費の減少などにより8,648円減少したほか、繰出金は平成30年度の介護保険事業の東三河広域連合への統合による介護保険事業特別会計繰出金の性質変更(繰出金から補助費等)が影響し類似団体平均との乖離が生じている。また、投資及び出資金は総額は前年度と同水準だが人口減少により194円増加した。

旧合併特別事業債の発行期限の令和7年度までには当該事業債を活用した大型建設事業が計画されているが、一方で人口減少や高齢化に伴う市税等の減少や普通交付税の合併分定額による増分額の縮減などによる歳入の減少が予測されることから、経費的経費の削減や公共施設のリニューアル、事業の見直しなどを含めて、現在の行政サービスを持続しながら財政運営を行うよう、対策を講じる必要がある。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

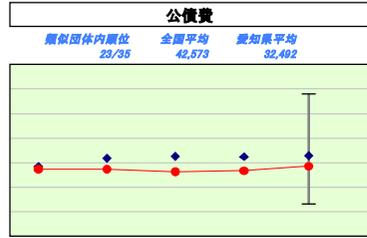
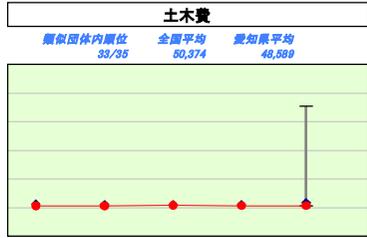
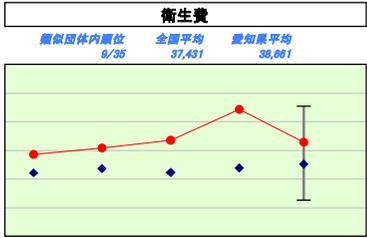
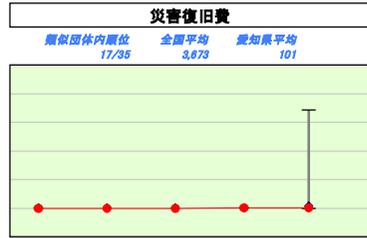
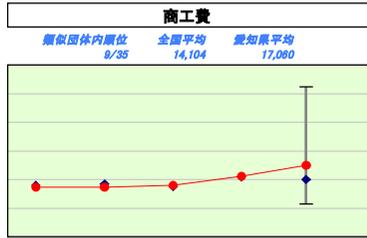
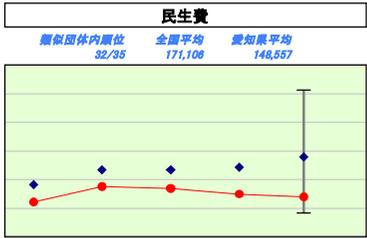
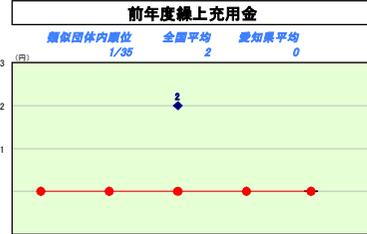
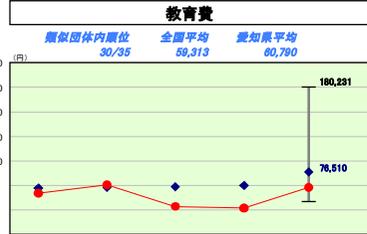
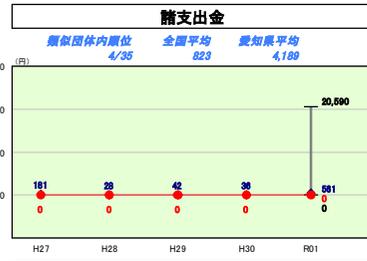
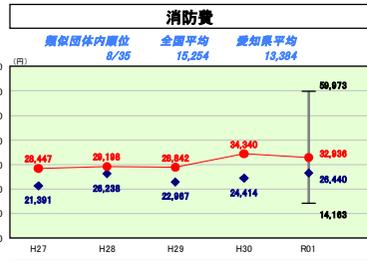
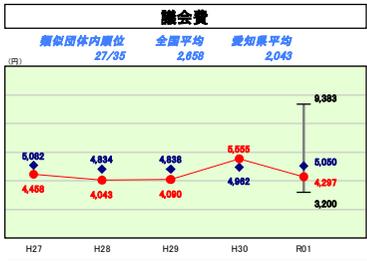
令和元年度

愛知県新城市

人口	46,029 人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	44,971 人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	499.23 km ²	実質公債費比率	6.0 %
歳入総額	24,303,495 千円	将来負担比率	50.7 %
歳出総額	23,362,711 千円	市町村類型	H27 I-2 H28 I-0 H29 I-0
実収支	746,390 千円	(年度毎)	H30 I-0 R01 I-0
標準財政規模	14,316,782 千円		
地方債現在高	28,324,273 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



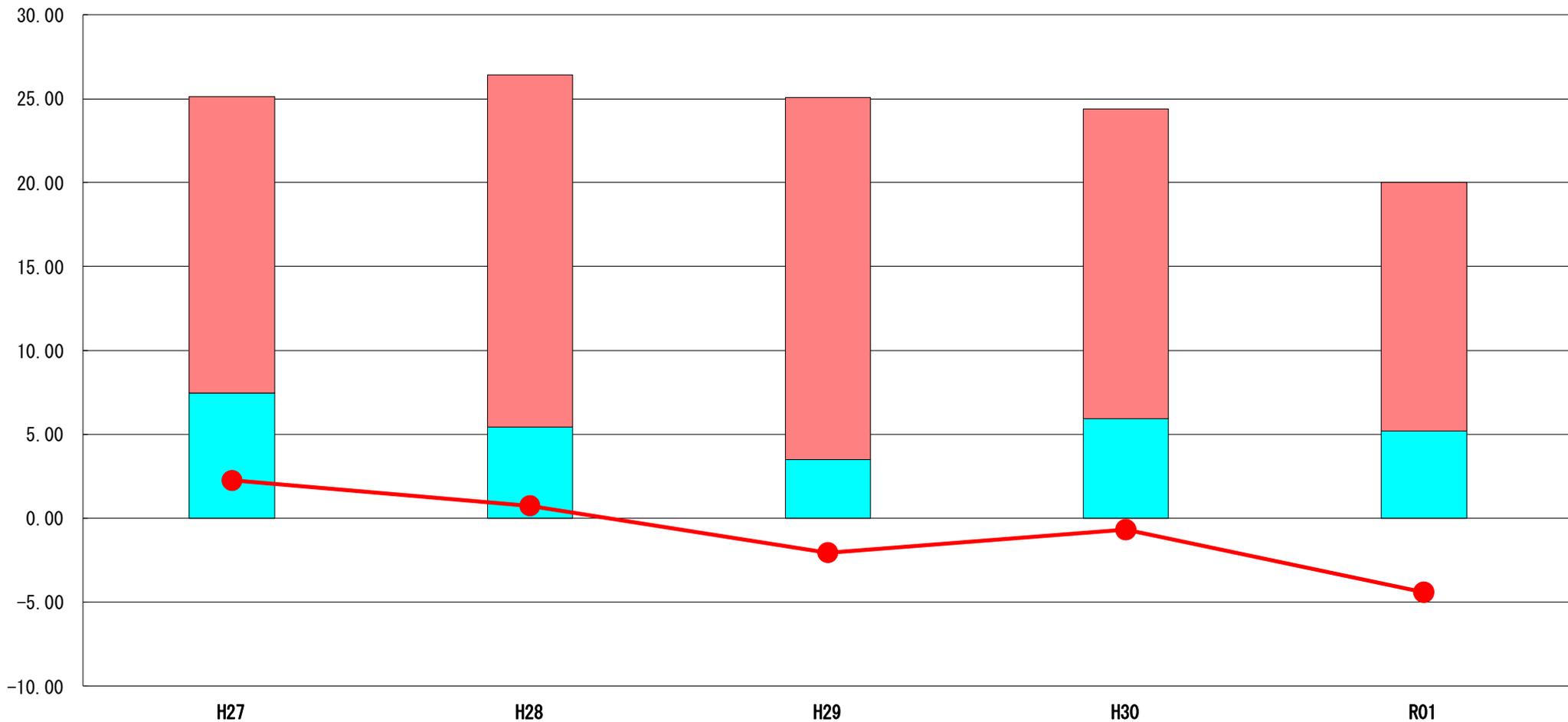
目的別歳出の分析
 増加した要因を見ると、商工費は新城インターチェンジ周辺整備事業や桜洲公園再整備事業などの増加により、512円増加した。教育費は小中学校への空調設備整備などに取組んだ結果25,386円の増加となった。
 一方で減少した要因をみると、議会費は議場等改修工事の終了により1,258円の減少、総務費は庁舎建設工事の終了等により40,971円の減少、民生費は東三河広域連合介護保険事業拠出金の減などにより2,881円の減少、衛生費はし尿等下水道投入施設整備事業やクリーンセンター整備事業の減などにより22,958円の減少、消防費は同轄系中継局無線機更新に費用や新庁舎防災行政無線設備機器新設工事費などの減により1,404円の減少となった。人口の減少が続き、全体的には一人当たりのコストは増加傾向のため、今後も経常経費の削減などに努めていく。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和元年度

愛知県新城市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H27	H28	H29	H30	R01
 財政調整基金残高		17.68	21.00	21.59	18.45	14.79
 実質収支額		7.45	5.41	3.47	5.93	5.21
 実質単年度収支		2.26	0.74	▲ 2.05	▲ 0.67	▲ 4.41

分析欄

形式収支は前年度と同程度となったが、国の補正予算第1号に関連する「GIGAスクール構想」に対応するため小中学校の校内通信ネットワーク整備事業等前年度と比較し多額の翌年度に繰り越すべき財源が発生したため、実質収支額は0.7ポイント低下した。また、財政調整基金についても新城インターチェンジ周辺整備事業や企業用地等開発推進事業など大型事業が多く歳入調整を行う必要があったため529百万円を取り崩しており、実質単年度収支は前年度対比3.74ポイント低下した。

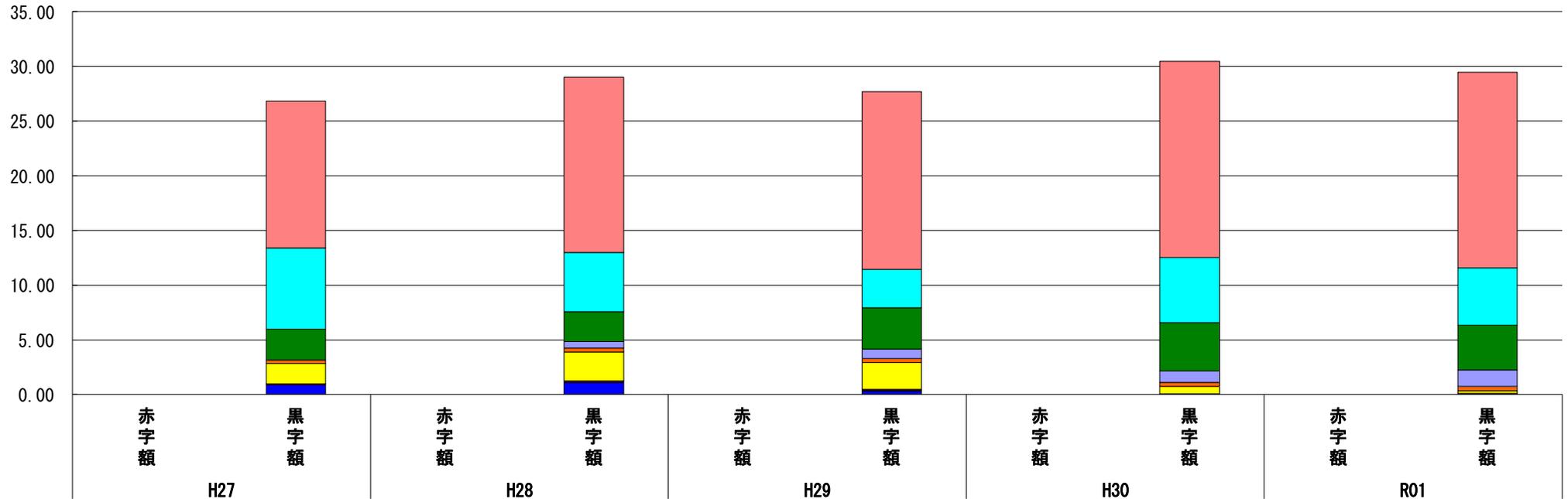
今後とも財政調整基金を取り崩さない財政運営を図り、将来負担の抑制に取り組んでいく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

標準財政規模比（％）

令和元年度

愛知県新城市



標準財政規模比（％）

会計	年度	H27	H28	H29	H30	R01
病院事業会計		13.41	16.01	16.24	17.91	17.89
一般会計		7.41	5.40	3.47	5.93	5.21
水道事業会計		2.82	2.76	3.81	4.43	4.10
下水道事業会計		-	0.59	0.84	1.05	1.49
工業用水道事業会計		0.34	0.36	0.39	0.38	0.41
国民健康保険事業特別会計		1.83	2.62	2.46	0.66	0.22
後期高齢者医療特別会計		0.09	0.12	0.11	0.05	0.11
国民健康保険診療所特別会計		0.03	0.02	0.03	0.02	0.02
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.87	1.12	0.33	0.00	0.00

分析欄

全ての会計で黒字となっている。
 法適用企業では、病院事業会計をはじめ、全ての会計において多少の増減はあるものの、前年度と同水準の比率を維持している。
 公営事業では、国民健康保険事業特別会計で黒字額(実質収支額)が減少し比率も下降している。後期高齢者医療特別会計と国民健康保険診療所特別会計は前年度と同等、もしくはそれ以上の黒字額(実質収支額)を維持した。
 一般会計についても、前年度からやや下落したものの黒字額(実質収支額)を維持している。
 算定初年度の平成19年度から黒字を続けており、今後も健全な財政運営、経営を実施し黒字を継続していく。

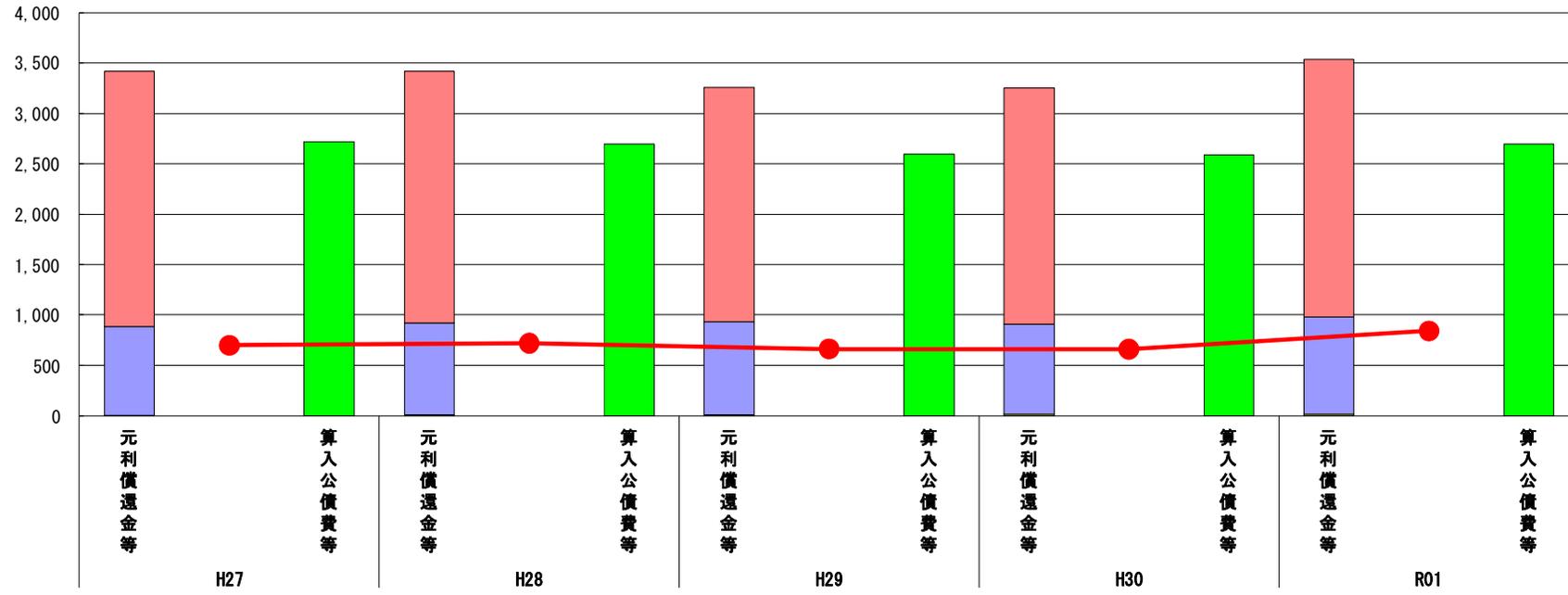
※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和元年度

愛知県新城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H27	H28	H29	H30	R01
元利償還金等(A)	元利償還金	2,534	2,495	2,328	2,340	2,559
	減債基金積立不足算定額※2	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	881	918	926	895	965
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額	4	6	6	14	14
	一時借入金の利子	-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等	2,720	2,698	2,596	2,587	2,696
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	699	721	664	662	842

分析欄

地方債の発行が増加しているため元利償還金のうち元金償還金が増加していること、公営企業債の元利償還金に対する繰入金も増加に転じたことから、実質公債費比率の分子は増加した。算入公債費等のうち基準財政需要額に算入される額も増えているが、今後も市債の発行については、必要性や規模などを精査し、同時に本市の財政運営に有利な起債のメニューを選択していく。併せて、公営企業の健全化や財源の確保などにも努めていく。

※1 令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

		年度				
		H26末	H27末	H28末	H29末	H30末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額	-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債の償還財源として積み立てた額はない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

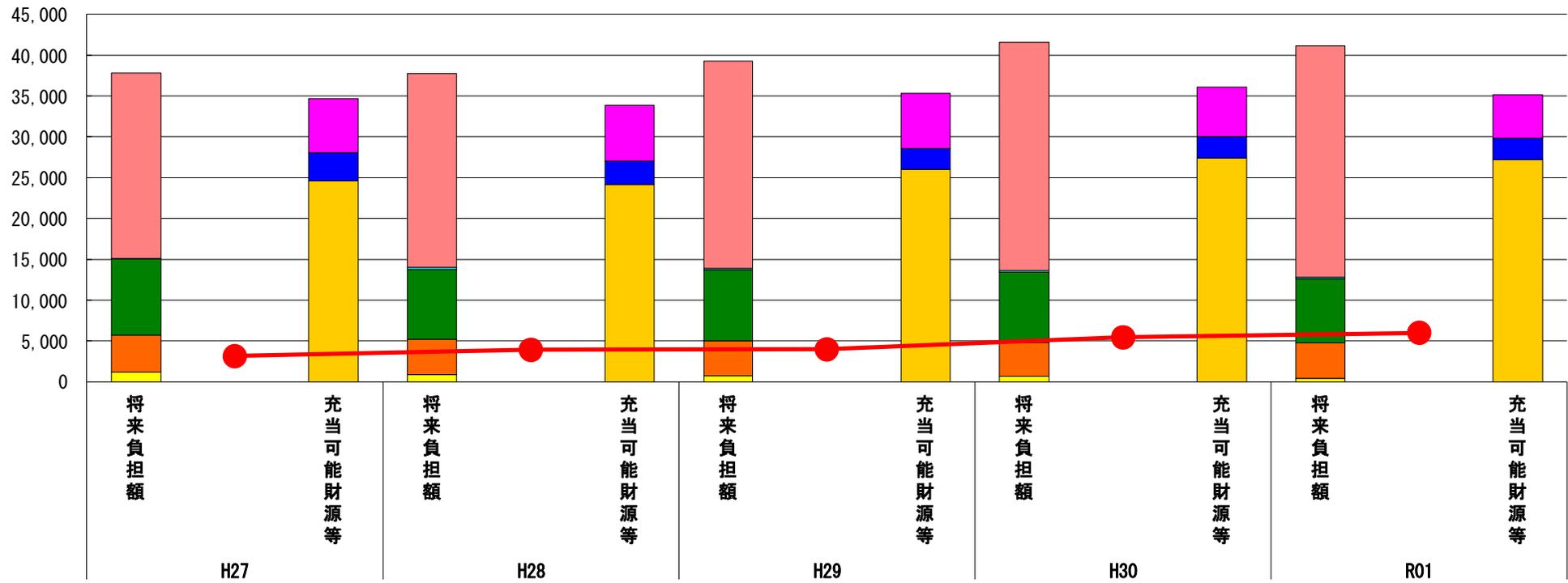
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和元年度

愛知県新城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H27	H28	H29	H30	R01
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		22,726	23,774	25,413	27,923	28,324
	債務負担行為に基づく支出予定額		51	201	177	166	154
	公営企業債等繰入見込額		9,350	8,589	8,694	8,655	7,899
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		4,511	4,378	4,236	4,163	4,280
	設立法人等の負債額等負担見込額		1,202	842	781	661	479
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		6,620	6,851	6,746	6,052	5,322
	充当可能特定歳入		3,454	2,814	2,554	2,612	2,537
(A) - (B)	将来負担比率の分子		3,164	3,929	3,979	5,476	6,019

分析欄

市町村合併後、旧合併特例事業債を活用した大型建設事業に集中して取り組んでいることから、当該事業債を中心に地方債現在高の増加が続いている。令和元年度は東郷中学校屋内運動場改築事業や市内全小中学校の空調設備整備などの市債発行により地方債現在高は前年度対比401百万円の増加となっている。

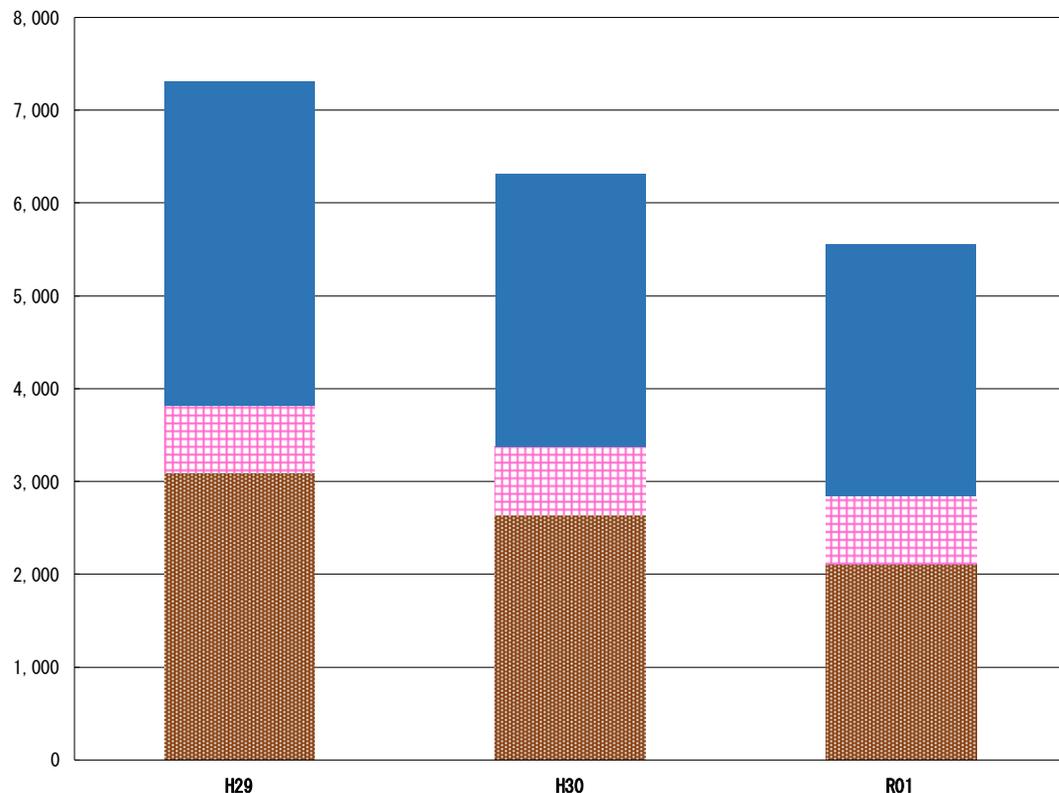
また、市債発行の際は地方交付税措置のある起債メニューを選択し、将来負担額の軽減に努めていることから、基準財政需要額算入見込額は増加したが、財源調整に伴う財政調整基金取り崩しにより充当可能基金974百万円減少し、将来負担比率の分子の上昇原因となっている。

今後も市債発行の必要性を厳しく精査するとともに、基金残高にも注意を払い、将来負担の抑制に努めていく。

※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

（百万円）



区分	年度	H29	H30	R01
財政調整基金		3,093	2,645	2,118
減債基金		729	730	730
その他特定目的基金		3,492	2,938	2,710
みなさんのまちづくり基金		1,573	1,507	1,441
庁舎等建設基金		1,317	899	716
ゴルフ場開発地域振興基金		200	200	200
地域福祉基金		230	201	187
森づくり基金		-	-	39
基金残高合計		7,314	6,312	5,557

令和元年度

愛知県新城市

基金全体

（増減理由）

財政調整基金は2百万円の利子積み立てと529百万円の取り崩しを行ったため527百万円減少し、減債基金については取り崩しは行わずに1百万円の利子積立を行った。その他特定目的基金は、庁舎改修工事などに充当するため庁舎等建設基金を184百万円、地方創生事業等の事業費に充当するためみんなのまちづくり基金を67百万円を取り崩したことなどにより基金全体で228百万円の減少となった。

（今後の方針）

前年度繰越金等を財源により可能な限り基金積立を行いたい。公共施設等総合管理計画に基づき今後、公共施設の維持管理経費が増加するが、財政調整基金を取り崩さない財政運営を図っていく。

財政調整基金

（増減理由）

財政調整基金は2百万円の利子を積み立てたが、新城インターチェンジ周辺整備事業や企業用地等開発推進事業などの大型事業が重なり、歳入調整を行う必要があったため529百万円を取り崩し、基金残高は前年度と比較し527百万円の減少となった。

（今後の方針）

具体的な基金の目標額は定めていないが、可能な限り積み立てられる時には積立を行いたい。今後もやむを得ず財源調整のため財政調整基金を取り崩すことが想定されるが、財政調整基金の取り崩しは原則行わないことを基本路線とする財政運営に努めていく。

減債基金

（増減理由）

減債基金は、取り崩しは行わずに1百万円の利子積立のみを行った。

（今後の方針）

庁舎建設事業等による後年度の合併関連市債償還額の増加を考慮し、平成25年度に300百万円、平成26年度に200百万円の積立を行ったが、平成27年度からは利子積立のみとしている。庁舎建設事業に係る市債元金の償還が始まることから、令和2年度から公債費負担軽減のため減債基金の取り崩しを行うこととしている。

その他特定目的基金

（基金の使途）

- みんなのまちづくり基金：市における地域住民の連帯の強化及び地域の振興を図るための事業を円滑に推進するための基金
- 庁舎等建設基金：庁舎建設のための基金
- ゴルフ場開発地域振興基金：合併前の作手村の区域(旧作手村)において行われたゴルフ場開発に関し、旧作手村と有楽観光開発株式会社との間で締結された協定書並びに契約書に基づく土地の保全及びコミュニティ活動の推進等地域の発展に寄与するための基金
- 地域福祉基金：市地域福祉の推進を図るための基金
- 森づくり基金：森林環境譲与税を活用し森林の整備及び保全を推進するための基金

（増減理由）

- みんなのまちづくり基金：2百万円の利子積立を行ったが地方創生事業費に充当するため67百万円を取り崩したため66百万円減少した。
- 庁舎等建設基金：1百万円の利子積立を行ったが東庁舎改修工事等に充当するため184百万円を取り崩したため183百万円減少した。
- 地域福祉基金：1百万円の元本及び利子積立を行ったが老人ホーム改修事業費に充当するため14百万円を取り崩したため14百万円減少した。
- 森づくり基金：森林環境譲与税を活用し森林の整備及び保全を推進するため令和元年度に当該基金を設置し、森林環境譲与税のうち未充当分39百万円の積立を行った。

（今後の方針）

現時点では積極的に積み立てを行っている特定目的基金はない。庁舎等建設基金は、今後風来総合支所の建設に充当することを予定している。また、新城市公共施設等総合管理計画の推進のための基金の設置についても検討する必要があると考えている。なお、みんなのまちづくり基金は新城版地方創生の原資であり、地方創生事業の積極的な推進により取崩しが進めば、再度積み立てを行う必要があるものと考えている。